

明南の「いいところ」って何？

明南の「いいところ」って、何でしょうか？ 先日、ある先生に投げかけた質問です。

本校は、創立96年を迎える伝統校。明石市内で一番古く、元々高等女学校でした。親子3代で明南生という家庭も少なくなく、長い時代の中で、多くの変遷を遂げてきました。そして、総合学科が設置されてから11年目となり、新たな節目を迎えているところです。

課題研究などで、自分で課題を見つけ、それについて調査・分析し、堂々と発表できる力を育めるところが良さではないでしょうか。その先生からの答えでした。実際、何人かの卒業生から次のような話を聞いたそうです。

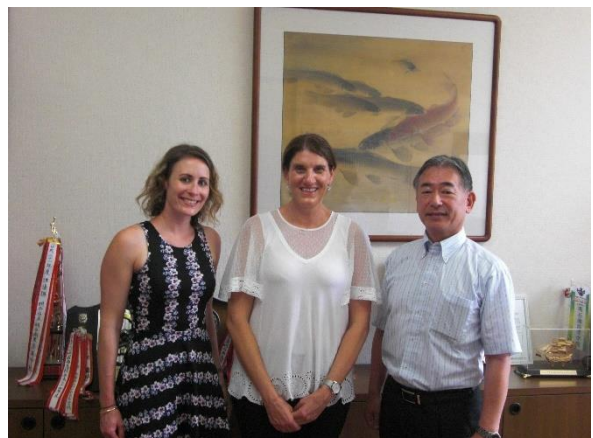
「大学時代、研究発表の際、他の学生は、何をどうするのがわからず、困っていることがありましたが、自分は、明南で学んだことで、何をどのように調べるのがわかっているの、助かりました。また、人前でも堂々と発表できるので、明南で学んだことが役に立っています。また、大学を卒業し企業に勤めていても、様々な場面において明南で学んだことが、役立っています。自分で考え、判断できるのは強みです。」

自ら課題を見つけ、考え、判断し、発表する力を高めることができる — それが、総合学科としての明南の「いいところ」なのでしょう。新たな大学入試制度では、この力は今以上に重要視され、社会人になってからもきっと役立つ力だと思います。

姉妹校セントマークス校からの訪問

7月12日(水)に西オーストラリア州パースにある姉妹校から休暇中の先生がお二人来校されました。広島、京都、東京にも寄られたそうです。お一人は地理の先生で、明石のことを授業で取り上げたいということで、熱心に日本の学校の様子や明石の産業、観光、防災等について本校の英語、地歴公民、商業、防災担当の各先生から話を聞かれ(もちろん英語で)、充実した時間を持たれました。防災だけでも1時間は話を聞かれました。

[校長室にて]



私も以前、パースに交換教員としてセントマークス校近くの公立高校に勤務していた関係で、話が弾みました。

来年1月セントマークス校から訪問団が来られます。楽しみにしててください。